

(聞き取り記録1)就労継続支援B型事業所みなみ管理者・新井真一さんからの聞き取り

岡田晴美さんは、20歳で知的障害がある。職員の指示は概ね理解しているが、単語を話すぐらいで、言葉による細かい内容のコミュニケーションはできないので、晴美さんからの聞き取りは難しいのではないかと。

家族は、専業主婦の母・京子さん(45歳)、会社勤めの父・正雄さん(48歳)の3人暮らし。晴美さんは、小学校の途中までは通常学級に在籍していたが、中学年から特別支援学級に移り、地元中学校の特別支援学級を卒業後、特別支援学校高等部に入学、卒業後は就労移行支援を利用したが、利用期間終了後、現在のB型事業所みなみに通っている。

1ヶ月前からB型事業所の作業内容が変更となった。その頃から通所をしづらくなった。家での生活が不規則になり、母・京子さんが通所させようとするとうるさく抵抗するようになったため、朝の通所の迎えに、B型事業所みなみの職員が、自宅の玄関まで迎えに行くようになった。

近所には、京子さんの母・松原希美さん(73歳)が住んでいる。京子さんの父・清司さんは半年前に亡くなっており、希美さんは一人暮らしをしている。

希美さんが言うには、「母親の京子がいなくなるから、孫がB型事業所に行かない。母親を指導してほしい。」とB型事業所みなみに訴え、晴美さんがB型事業所みなみに通所することを強く望んでいる。

京子さんにも軽度の知的障害があり、時々感情が不安定になることから精神科に通院しているとのこと。診断名は不明だが、安定剤と睡眠導入剤が処方されているらしい。